親と子の愛情と戦略

柏木恵子

講談社現代新書

2090

親と子の愛情と戦略

柏木惠子

常州大学図書館
藏书章

講談社現代新書
2090

N.D.C. 367　248p　18cm
ISBN978-4-06-288090-9

講談社現代新書　2090
親と子の愛情と戦略
二〇一一年二月二〇日第一刷発行

著　者　柏木恵子　© Keiko Kashiwagi 2011
発行者　鈴木　哲
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽二丁目一二—二一　郵便番号一一二—八〇〇一
電　話　出版部　〇三—五三九五—三五二一
販売部　〇三—五三九五—五八一七
業務部　〇三—五三九五—三六一五
装幀者　中島英樹
印刷所　凸版印刷株式会社
製本所　株式会社大進堂
定価はカバーに表示してあります　Printed in Japan
落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。
複写を希望される場合は、日本複写権センター（〇三—三四〇一—二三八二）にご連絡ください。
R〈日本複写権センター委託出版物〉

目次

第一章　〈親になる〉道さまざま

〈親になる〉仕組み／〈結婚〉という制度をセックスに割り込ませた人間／〈結婚〉がセックスの前提として重要だったわけ／性の自由化はなぜ起こったか？／命の誕生に起こった画期的な変化／〈親になる〉から〈親となる〉へ／子どもへの愛情や養育の内容は時代によって違う／妊娠・出産への感情／子を「つくる」は少子化の基盤／なぜ少子に？／子を「つくる」の極み――生殖革命／生殖医療は福音か？／「子をもつ」にいたるまでの選択肢の複雑化／生殖医療をめぐる心の問題／命の出自の多様化

第二章　〈親となる〉＝子を「つくる」親の心理

親の選択・決断事項になった〈親になる〉こと／「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」と考える時代／「なぜ子を産むか？」があえて問われる初の時代／

子どもの価値にはプラス、マイナス両面が／子産み・子育ては親の自己資源の投資／社会の変化がもたらした女性の変化／今、女性は「なぜ子を産むか」／なぜ一人っ子に？／〈親となる〉決断の時代に必要なこと

第三章　〈親をする〉人とその心理

〈親をする〉必要がある人類／赤ちゃんを養育する大人の心と力／誰が育てるか／父親――進化の産物／誰が育てているか／「子どもが生まれると夫婦に何が起きるか」／子の誕生は夫と妻の性別分業を推進する／〝母の手で〟はうまくいっているか？／子どもに投資か、自分にも投資か／社会の変化は女性の心を変える／自己資源を何にどう配分するか／子への強い思い入れと教え込み／人口革命のもと、強まる子どもの私物化／「代理達成」としての子への教育熱／親がかりの学習動機づけ／〝生まれ方〟によって違う生後の処遇／子への愛情と養育／親教育の焦点は？

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第四章　父親の発達心理学

父親にとっての子どもの価値／父親にとっての育児／父親と母親は違うのか？／父親が育児の第一責任者になると／「厳父慈母」？／マザリング・ファザリングから、ペアレンティング／父親の育児不在がもたらす母親＝配偶者への影響／父親の育児不在は少子化の元凶／子どもへの影響／父親不在は子どもの知的発達にマイナス？／男性自身にとっての育児不在、不参加の影響／自殺が男性に多いわけ／ジェンダーへのこだわりは大人としての発達を阻害／「話を聞かない男」はなぜ？

第五章　親の発達心理学

育児休業を取った父親／〈親をする〉ことによる男性の発達／子どもとともに学ぶ、成長する父親／〈親をする〉体験は大人の成長発達を促す／父親の育休取得率が一・七二％と増えないわけ／「ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画」の実現を

第六章　成人した子どもと親

親子関係の出発／「一人前」までが親の子育て責任期間／親と子の関係の変化／人間の「一人前」は社会文化的状況により変わる／「一人前」後の親と子の関係／今、親と子は？／パラサイトする子・パラサイトさせる親／親との同居への評価と期待／パラサイトはなぜ生まれたか／「離家」規範と「家族一緒」規範／相互依存・相和関係重視か、個人の意思・個人生活重視か／子どもは親にとって何者か／パラサイトの基盤としての性別分業と母子中心家族／「つくった」子に「できるだけのことをしてやる」親／〈親をする〉の長期化のゆくえ／〈巣立ち〉させない親と〈巣に留まり続ける〉子

第七章　「親資源の流れ」にみる親と子の関係

人間の繁殖・産育は親資源の投資／親子間の資源の流れ、二つのタイプ／親子間の資源の流れは「生き方文化」の反映／変化しつつある規範／日本での資源の流れは

第八章　老親介護をめぐる親と子

親と子の間の資源の流れの変化／ケアという資源／介護経験の一般化／周辺化される老親／ケアの担い手は？／子の命にもジェンダー問題／娘にケアラーとしての期待が／介護を困難にした少子高齢化／男性の介護参加を阻む要因／男性による介護の特徴／ケアの受け手に終始する男性／生活の自立は「一人前」の必須要件／性別しつけの効果は？／男の子の育て方が男性の発達不全の温床／「男だから」「女だから」ではなく／幼・弱・病を援助する心と力／養護性を育む／「家族による介護」の理想と現実／「外部による介護」の位置の変化／家族介護の新しいかたち／老親扶養をめぐる文化規範

第九章　日本の親子間の資源の流れとそのゆくえ

資源はどう流れるか／還流型は困難に／誰が介護の担い手か／親の資源投資戦略の見直し／「できるだけのことをしてやる」は子への愛情か？／質素な学生生活を送るアメリカの女子留学生と親の老後生活／「家族が主、外部は副」から「外部が主、

家族は副」へ／「子どもの世話にはなりたくない」という親／親から辞退し始めた「親孝行」／日本にも新しいトレンドが／扶養問題と遺産相続をめぐる葛藤／女性の生き方の問題／「おばあさん仮説」は妥当か？

終章　「育てる」と「育てられる」の一生

ケアの授受としての人間の一生／「一人前」であることに必要なケアする心と力／性別しつけ再考／〈ケアする〉心と力を育む／血縁とジェンダーを超えるケアの授受

あとがき

親と子の愛情と戦略

柏木惠子

講談社現代新書

2090

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

第一章　〈親になる〉道さまざま

〈親になる〉仕組み／〈結婚〉という制度をセックスに割り込ませた人間／〈結婚〉がセックスの前提として重要だったわけ／性の自由化はなぜ起こったか？／命の誕生に起こった画期的な変化／〈親になる〉から〈親となる〉へ／子どもへの愛情や養育の内容は時代によって違う／妊娠・出産への感情／子を「つくる」は少子化の基盤／なぜ少子に？／子を「つくる」の極み――生殖革命／生殖医療は福音か？／「子をもつ」にいたるまでの選択肢の複雑化／生殖医療をめぐる心の問題／命の出自の多様化

第二章　〈親となる〉＝子を「つくる」親の心理

親の選択・決断事項になった〈親になる〉こと／「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」と考える時代／「なぜ子を産むか？」があえて問われる初の時代／

子どもの価値にはプラス、マイナス両面が／子産み・子育ては親の自己資源の投資／社会の変化がもたらした女性の変化／今、女性は「なぜ子を産むか」／なぜ一人っ子に？／〈親となる〉決断の時代に必要なこと

第三章　〈親をする〉人とその心理

〈親をする〉必要がある人類／赤ちゃんを養育する大人の心と力／誰が育てるか／父親――進化の産物／誰が育てているか／「子どもが生まれると夫婦に何が起きるか」／子の誕生は夫と妻の性別分業を推進する／〝母の手で〟はうまくいっているか？／子どもに投資か、自分にも投資か／社会の変化は女性の心を変える／自己資源を何にどう配分するか／子への強い思い入れと教え込み／人口革命のもと、強まる子どもの私物化／「代理達成」としての子への教育熱／親がかりの学習動機づけ／〝生まれ方〟によって違う生後の処遇／子への愛情と養育／親教育の焦点は？

第四章　父親の発達心理学

父親にとっての子どもの価値／父親にとっての育児／父親と母親は違うのか？／父親が育児の第一責任者になると／「厳父慈母」？／マザリング・ファザリングから、ペアレンティング／父親の育児不在がもたらす母親＝配偶者への影響／父親の育児不在は少子化の元凶／子どもへの影響／父親不在は子どもの知的発達にマイナス？／男性自身にとっての育児不在、不参加の影響／自殺が男性に多いわけ／ジェンダーへのこだわりは大人としての発達を阻害／「話を聞かない男」はなぜ？

第五章　親の発達心理学

育児休業を取った父親／〈親をする〉ことによる男性の発達／子どもとともに学ぶ、成長する父親／〈親をする〉体験は大人の成長発達を促す／父親の育休取得率が一・七二％と増えないわけ／「ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画」の実現を

第六章　成人した子どもと親

親子関係の出発／「一人前」までが親の子育て責任期間／親と子の関係の変化／人間の「一人前」は社会文化的状況により変わる／「一人前」後の親と子の関係／今、親と子は？／パラサイトする子・パラサイトさせる親／親との同居への評価と期待／パラサイトはなぜ生まれたか／「離家」規範と「家族一緒」規範／相互依存・相和関係重視か、個人の意思・個人生活重視か／子どもは親にとって何者か／パラサイトの基盤としての性別分業と母子中心家族／「つくった」子に「できるだけのことをしてやる」親／〈親をする〉の長期化のゆくえ／〈巣立ち〉させない親と〈巣に留まり続ける〉子

第七章　「親資源の流れ」にみる親と子の関係

人間の繁殖・産育は親資源の投資／親子間の資源の流れ、二つのタイプ／親子間の資源の流れは「生き方文化」の反映／変化しつつある規範／日本での資源の流れは

第八章　老親介護をめぐる親と子

親と子の間の資源の流れの変化／ケアという資源／介護経験の一般化／周辺化される老親／ケアの担い手は？／子の命にもジェンダー問題／娘にケアラーとしての期待が／介護を困難にした少子高齢化／男性の介護参加を阻む要因／男性による介護の特徴／ケアの受け手に終始する男性／生活の自立は「一人前」の必須要件／性別しつけの効果は？／男の子の育て方が男性の発達不全の温床／「男だから」「女だから」ではなく／幼・弱・病を援助する心と力／養護性を育む／「家族による介護」の理想と現実／「外部による介護」の位置の変化／家族介護の新しいかたち／老親扶養をめぐる文化規範

第九章　日本の親子間の資源の流れとそのゆくえ

資源はどう流れるか／還流型は困難に／誰が介護の担い手か／親の資源投資戦略の見直し／「できるだけのことをしてやる」は子への愛情か？／質素な学生生活を送るアメリカの女子留学生と親の老後生活／「家族が主、外部は副」から「外部が主、

家族は副」へ／「子どもの世話にはなりたくない」という親／親から辞退し始めた「親孝行」／日本にも新しいトレンドが／扶養問題と遺産相続をめぐる葛藤／女性の生き方の問題／「おばあさん仮説」は妥当か？

終章　「育てる」と「育てられる」の一生　235

ケアの授受としての人間の一生／「一人前」であることに必要なケアする心と力／性別しつけ再考／〈ケアする〉心と力を育む／血縁とジェンダーを超えるケアの授受

あとがき　246

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com